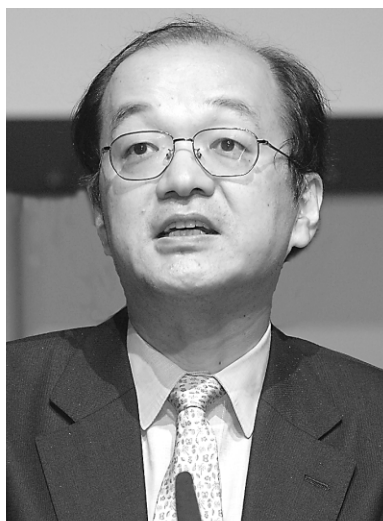


円滑化へ早期の取り組みを推進

来賓あいさつ



中小企業庁次長
岩井良行氏

中小企業の事業承継支援強化 税制拡充柱に問題解決に尽力

中小企業はわが国の経済を支える大きな基盤で、地域経済の活性化が進展しており、円滑な事業承継の重要性はますます高まっている。

基調講演

歴史に学ぶ承継と革新



歴史家・作家
加来耕三氏

真の常識に立ち返る

未来は過去と現代をつなぐ線上に 従来の処方せんや戦略は通用せず

歴史は活用してこそ意義がある。歴史学というのはAがBになり、BがCになるという、結果だけを追いかけていくと、何ひとつ疑問が湧(わ)かないようにできている。疑問が湧かない歴史を、一生懸命になぞってみても、今のような混沌の時代にヒントとして活用できるものは、万に一つも存在しない。

事業承継を考えるときには、歴史小説はあまり読まない方がよい。歴史小説を元にした大河ドラマなども、ほとんどそうである。歴史小説は、登場人物がことごとく飛躍するところに面白さがあるが、

私は過去に学習したこと、経験したことを復元する能力を持っている。しかし、見たことがない、やったことがないものを「はい、やってください」と言われても、すぐできるわけではない。日本人

承継の際に、とくに何が大切かを二つ考えてみた。一つは「右手の法則・左手の原理」、二つ目は「未発の発芽」である。前者は手品の原理だ。そのときはすでに手遅れが多い。なぜ、そうなるのか。我々

三氏による基調講演に続き、税理士・公認会計士の城所弘明氏、事業承継コーディネーターの小松久男氏が事業承継の留意点を詳細に説明、パネルディスカッションでは、実際に事業承継した若手社長二人を交えて専門家が多面的に意見を交わした。

主催者あいさつ



中小企業基盤整備機構理事長
鈴木孝男

相談窓口を設置、体制強化 ガイドラインなど情報発信

マジシャンは決して左手を見られるようなへまはしない。来ている方向を、我々の日常生活で起こっていることを自覚すべきである。

例えば、ニュース報道を取ってみると、我々は真実の半分程度しか物事を見ていない。しかし、企業経営者は承継問題など、すべての場での決断を求められる。判断の頼りになるものが半分以上ないわけば、百の決断はできないわけだ。残り半分は歴史の世界に学ぶべきだ。

過去には今と似たような人物、事柄、事件が分野を超えて必ずあった。これを現代にフィードバックすることができれば、歴史を活用することは難しいことではない。要は左右のバランスを、いかに取るかということだ。

「未発の発芽」は物事には必ず前兆があるが、その前兆現象をいかにとらえるかということ。物事が大きくなってから、あわてて「そういうええ、あのとき」と気づくものだが、それのときはすでに手遅れが多い。これは中小企業経営者のため

中小企業庁と関係団体や中小企業関係団体で設立した「事業承継ガイドライン」を公表した。それを基に中小企業庁が「中小企業の円滑な事業承継のための手引き」として作成したものが「事業承継ガイドライン2007」である。これは中小企業経営者のため

「事業承継ガイドライン」の活用と「事業承継計画」のつくり方

「事業承継ガイドライン」の活用と「事業承継計画」のつくり方

「事業承継ガイドライン」の活用と「事業承継計画」のつくり方

「事業承継ガイドライン」の活用と「事業承継計画」のつくり方

「事業承継ガイドライン」の活用と「事業承継計画」のつくり方

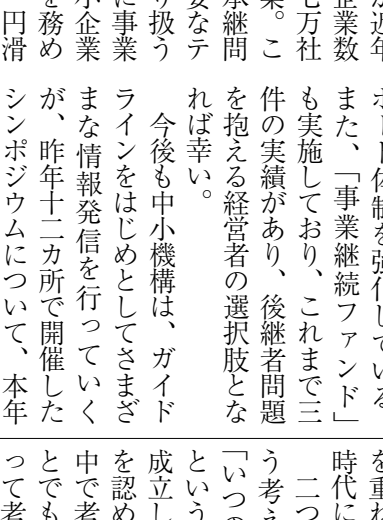
「事業承継ガイドライン」の活用と「事業承継計画」のつくり方

「事業承継ガイドライン」の活用と「事業承継計画」のつくり方

「事業承継ガイドライン」の活用と「事業承継計画」のつくり方

「事業承継ガイドライン」の活用と「事業承継計画」のつくり方

自分の気持ち明確に



税理士・公認会計士
城所弘明氏

経営者の早い決断と現状認識重要 専門家を活用し経営基盤の整備を

奇跡や偶然は排除

最後に承継を成功させるための、二つの条件を挙げたい。第一は、歴史そのものを疑って

「事業承継ガイドライン」の活用と「事業承継計画」のつくり方

「事業承継ガイドライン」の活用と「事業承継計画」のつくり方

「事業承継ガイドライン」の活用と「事業承継計画」のつくり方

「事業承継ガイドライン」の活用と「事業承継計画」のつくり方

「事業承継ガイドライン」の活用と「事業承継計画」のつくり方

「事業承継ガイドライン」の活用と「事業承継計画」のつくり方

「事業承継ガイドライン」の活用と「事業承継計画」のつくり方

「事業承継ガイドライン」の活用と「事業承継計画」のつくり方

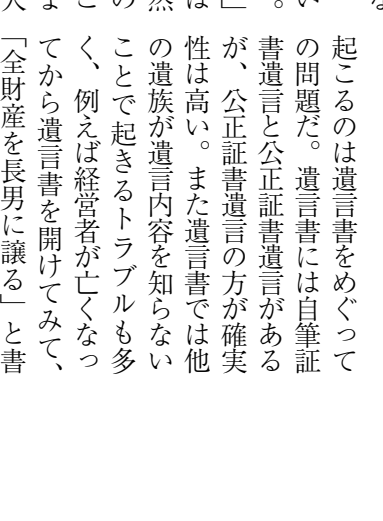
「事業承継ガイドライン」の活用と「事業承継計画」のつくり方

「事業承継ガイドライン」の活用と「事業承継計画」のつくり方

「事業承継ガイドライン」の活用と「事業承継計画」のつくり方

「事業承継ガイドライン」の活用と「事業承継計画」のつくり方

来賓あいさつ



歴史家・作家
加来耕三氏

事業承継は会社の足腰を 盤石にしておくことも大事である

事業承継は会社の足腰を盤石にしておくことも大事である。定款や就業規則などの見直しを行って将来の事業戦略を見据えた体制整備をしておくことが円滑な事業承継には欠かせない。

事業承継は会社の足腰を盤石にしておくことも大事である。定款や就業規則などの見直しを行って将来の事業戦略を見据えた体制整備をしておくことが円滑な事業承継には欠かせない。

事業承継は会社の足腰を盤石にしておくことも大事である。定款や就業規則などの見直しを行って将来の事業戦略を見据えた体制整備をしておくことが円滑な事業承継には欠かせない。

事業承継は会社の足腰を盤石にしておくことも大事である。定款や就業規則などの見直しを行って将来の事業戦略を見据えた体制整備をしておくことが円滑な事業承継には欠かせない。

事業承継は会社の足腰を盤石にしておくことも大事である。定款や就業規則などの見直しを行って将来の事業戦略を見据えた体制整備をしておくことが円滑な事業承継には欠かせない。

事業承継は会社の足腰を盤石にしておくことも大事である。定款や就業規則などの見直しを行って将来の事業戦略を見据えた体制整備をしておくことが円滑な事業承継には欠かせない。

事業承継は会社の足腰を盤石にしておくことも大事である。定款や就業規則などの見直しを行って将来の事業戦略を見据えた体制整備をしておくことが円滑な事業承継には欠かせない。

事業承継は会社の足腰を盤石にしておくことも大事である。定款や就業規則などの見直しを行って将来の事業戦略を見据えた体制整備をしておくことが円滑な事業承継には欠かせない。

事業承継は会社の足腰を盤石にしておくことも大事である。定款や就業規則などの見直しを行って将来の事業戦略を見据えた体制整備をしておくことが円滑な事業承継には欠かせない。

事業承継は会社の足腰を盤石にしておくことも大事である。定款や就業規則などの見直しを行って将来の事業戦略を見据えた体制整備をしておくことが円滑な事業承継には欠かせない。

事業承継は会社の足腰を盤石にしておくことも大事である。定款や就業規則などの見直しを行って将来の事業戦略を見据えた体制整備をしておくことが円滑な事業承継には欠かせない。

事業承継は会社の足腰を盤石にしておくことも大事である。定款や就業規則などの見直しを行って将来の事業戦略を見据えた体制整備をしておくことが円滑な事業承継には欠かせない。

事業承継は会社の足腰を盤石にしておくことも大事である。定款や就業規則などの見直しを行って将来の事業戦略を見据えた体制整備をしておくことが円滑な事業承継には欠かせない。

事業承継は会社の足腰を盤石にしておくことも大事である。定款や就業規則などの見直しを行って将来の事業戦略を見据えた体制整備をしておくことが円滑な事業承継には欠かせない。

事業承継を円滑に進めるために、経営者が今やるべきことは何か!!

